

背景音樂

内野義悠

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1										
歌だつたこゑ春草を雨が打つ たんぽぽの綿毛旅程をはづれゆく 伝ふるに瞳はたらく水の春	鳥の巣を仰ぎ打ち明け合つてをり 草餅や命日過ぎてゐるあくび 春の風邪シートベルトに身の厚み 花あんず旅先に書くわが住所	連泊の窓の親しく春の月	消灯にはじまる会話花朧	永き日の写真に見切れたる人も ころもがへ猫砂散つて軽い部屋 短夜のさぼてん柔く握つてみる 時差を寝てパパイヤしつくりと熟るる	みなみかぜ実家の犬が安産で 反対の車窓に海やレモン水 ノートみな使ひさしなり修司の忌 いつよりか外れしダーべーのカフス あめんぼのひと蹴りに水角張りぬ 音飛びのふつと蝙蝠まぎれくる 炙るもの切るもの削るものキャンプ	火の染みて鮎の輪郭定まりぬ 赤福の餡の起伏や夕涼し うすばかげろふ暗示じんはり解けてゐる	沖の月涼しく鍵は掛けたつけ はつあきの旅先に買ふ土地の水 吹抜けを七夕竹の満たしをり 竹伐りてけふの声帶よくひらく イニシャルのおなじ親子や小鳥来る 振れば根に重みの土や秋夕焼 詰め替へのシャンブーとろと十六夜へろ 切り出せばもうことばだか夜霧だか スライスレモン何度も浮かび来て離婚 鹿のこゑ独りの枕うらがへす 灯火親しめり贋作たいせつに 背景音樂夜長の窓を影の鳥 銀杏降りつづく褒めれば褒められて 花アロエ別れ話のさつと果つ 神留守のとぶんとぶんと備蓄水 ほどほどに人信じたり根深汁 霜の鶴世界半分づつ眠る くさめして影絵のひとつ増えてゐる 葉牡丹やぼんやり午後のはじまりぬ 伝線のひとすぢ室の花匂ふ	ホットワイン犯人なんとなく当たる 極月のレンジが鳴つてみんなゐて 積もらない雪やはらかく服を脱ぎ	熱帶魚一指に集め独りなる 沖の月涼しく鍵は掛けたつけ はつあきの旅先に買ふ土地の水 吹抜けを七夕竹の満たしをり 竹伐りてけふの声帶よくひらく イニシャルのおなじ親子や小鳥来る 振れば根に重みの土や秋夕焼 詰め替へのシャンブーとろと十六夜へろ 切り出せばもうことばだか夜霧だか スライスレモン何度も浮かび来て離婚 鹿のこゑ独りの枕うらがへす 灯火親しめり贋作たいせつに 背景音樂夜長の窓を影の鳥 銀杏降りつづく褒めれば褒められて 花アロエ別れ話のさつと果つ 神留守のとぶんとぶんと備蓄水 ほどほどに人信じたり根深汁 霜の鶴世界半分づつ眠る くさめして影絵のひとつ増えてゐる 葉牡丹やぼんやり午後のはじまりぬ 伝線のひとすぢ室の花匂ふ	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26